

Takashima Toujyu Kai

会報



No. 25

2021.1.15

# 高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行  
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224  
滋賀県高島市安曇川町上小川 225-1  
藤樹書院・良知館内  
電話・FAX 0740(32)4156

## あかぎれに藤樹先生を偲ぶ 〜withコロナの今〜

高島藤樹会 副会長 梅村 妙子

「あ痛っ！」めずらしく両手にできてしまったあかぎれ。何をするにも痛くて、つい言葉に出てしまいます。作業をしていると、充てたはずの傷テープが、貼る場所によつては直ぐに取れてしまいそうになるし、何とも厄介です。私だけかと思つていたら、職場では若い女性や中堅の男性も、初めて経験するあかぎれの、その痛さに悲鳴を上げ、何度も軟膏を塗っている姿を目にします。長引くコロナ禍で、手洗いや消毒を一日に何度も励行する日々が続いており、仕方がないかと自分自身に言い聞かせています。

四百年以上もの昔、冬になると藤樹先生のお母さんの手は、あかぎれで紫色に腫れ、ところどころが割れて血がにじんでいたそうです。今のように効き目のある軟膏も傷テープも、ゴム手袋もない時代、厳冬期の家事作業はどんなに痛くて辛かつたことでしょう。遠く離れて暮らす



お母さんのあかぎれに、心を痛めておられた藤樹先生が偲ばれます。ところで、私が本会を知ったのは定年退職を迎える前のことで、先輩から声をかけていただいたのがきっかけです。そのご縁で、令和元年度の中江藤樹・心のセミナー（講演会）に思い切つて参加してみました。廣瀬童心先生のご講演は、初心者の方にもとても理解しやすいもので、「人間は誰でもよい心を持っている。人が人間らしく楽しく生きるためには、日々の生活の中で五事（貌・言・視・聴・思）を正していくことが大切だ。」「藤樹先生の教えの根幹は孝。孝は愛し敬うことでもあり全てもとし生けるもの全てに森羅万象に全孝がある。」などは、今も心に深く残っています。特に、「五事を正す」の場面では、パック入り納豆を持ち出され、箸を使って糸引きと粘りの実演まであって、会場は大爆笑でした。個人がバラバラではダメだ、人間同士はこの糸のように繋がっていないといけないと強調された姿が忘れられません。私が藤樹先生の教えを学んでみようかなと思つたのはこの時でした。

さて、昨年度末から突然始まった新型コロナウイルス感染症拡大から、一年が過ぎようとしています。withコロナの生活は、これまでであった私たちの当たり前前の日常生活を根



近江聖人中江藤樹記念館

底から覆きました。未だに多くの場面で手探り状態が続き、収束の兆しも見えずに人々は疲弊しきつています。一方で、当

たり前の崩壊は、私たちに多くのことを気づかせてくれたようにも思います。そして、すでに気づきを行動で示し新しい発信をされている方々もおられます。

今こそ藤樹先生の教えを活かす時ではないでしょうか。「だれ一人排除することなく、取りこぼすことなく強い連帯感」で、「持病のある人もない人も、老いも若きも、障害のある人もない人も、外国人も日本人も、全ての多様性尊重」で、粘り強く新型コロナと闘わねばならない時です。大人が知恵を出し合つて互いの協力の下、法整備と強固な医療体制を整え、何よりも先ず、子供たちや弱い立場にある方々に一日も早く当たり前の日常に戻るよう努めなければなりません。粘りのある糸を何本も生み出せるよう常に見つめ直して、一本一本を太くして強い糸にし、粘りが切れない地域連携に取り組みたいと思います。